
週刊「74歳が送る農業文化マガジン『電子耕』」第6号

--農業・健康・食・図書・人物情報--

<http://www.nazuna.com/tom/denshico.html>

1999.8.5（木）発行 東京・ひばりヶ丘 原田 勉

<mailto:tharada@anet.ne.jp>

*****発行部数 747+30 部*****

<キーワード>

農業を中心として健康・食べ物・図書・人物・庶民の歴史
をめぐる雑学情報を提供し、お互いの意見交換の場を作しましょう。

<「電子耕」原稿・投稿募集>

このメルマガは読者の意見交換を一つの目的にしています。
「キーワード」の趣旨にそった投稿を募集しています。

- 1、庶民の歴史としての「自分史・父母の歴史」「エッセイ」
- 2、農業・文化について、健康・食についての情報など。
- 3、字数は一人1回500字から1000字くらい。メールで送って下さい。掲載するときのネームも添えて下さい。
- 4、採用分はこのメルマガに掲載します。その時は原則としてメールアドレスに連絡しますが、急ぎの場合は事後承認をいただくこともあると思います。また、原稿料は差し上げられませんので、ご了承ください。

編集責任者 原田 勉

<mailto:tharada@anet.ne.jp>

<まぐまぐ・NHKからのお知らせ>

きたる8月31日NHK教育テレビ・午後10時からE TV
で「メルマガの世界」(仮題)が放映される予定です。

メルマガ発行者にたいしてまぐまぐから「発行歴・発行の目的
・その結果・反応」などのアンケートがありました。

放映の確定は8月10日ですが、取りあえずお知らせします。

<読者の声・自殺考つづき>

今回は直接、読者から聞いた話を紹介します。最近高名な文芸評論家が妻の後を追って自殺したので、私の友人や読者からも反応がありました。

ある研究所の室長：「いつもにこにこしている原田さんが、信じられないくらい不幸な目にあっていたんですね」

ある大学教師：「自殺問題読んで、むかし、若者はほとんど自殺を考えましたね、そうじゃありませんでしたか。わたしも何回か考えましたが、ついやれませんでした。」

親戚のわかもの：「おじさん、こんなこと書いていいんですか。驚いた。こんなこと普通だまっておくものじゃないんですか。」

<編集者の声>

ひとびとの自殺について、軽がるしく批判・評論はできない。自殺の理由はそれぞれ、いろいろあるだろう。そして本人にとっては、これ以外にないと自分で判断した結果であろう。

しかし、しかしである。

「人間はいかに生き、いかに死すべきか」これは人間の永遠の課題であろう。個人によって、それぞれ考え方は違う、理想的というのも、何を基準にするのか分からない。

しかも、自分の理想どおりに生きたひとが何人いるだろうか。それでも、理想に近い生き方を求める。

同世代で妻を亡くした友人が「愛妻をガンで失い、その死が忘れられない。共にあの世に行きたい」という想いは純粹である。

私も、妻や子に死に別れたら、そう言うかもしれない。

「いかに生き、いかに死ぬか」は私にとってもさしせまった課題である。この課題を背負いつつ毎日を送る。

目次

<舌耕のネタ> ◎ 農業が呼んでいる

<農業・図書情報> 1、定年帰農・農業に親しむ
2、百姓入門資料集（その1）
3、インターネット・就農ガイド

<夏の健康食> 8月のしゅんの野菜
○ 夏はなぜ野菜のしゅんか
(6) ニガウリとウニの二杯酢

<舌耕のネタ> ◎ 農業が呼んでいる

「定年帰農・・・6万人の人生二毛作」という雑誌増刊号が初版6万部を売りきり、増刷した。雑誌の増刷とはめったにない。なぜ、こんなに売れたのか。売れる理由があったのだ。

さらに、続いて現在本屋の店頭には「百姓入門」や「田舎暮らし」「就農情報」という本が100点近く並べられている。売れているからであろう。

新しく農業をやるという、農林水産省の言う「新規農業従業者」は、1986年に10万人を切ってから、減少が加速し、90年には2万7000人まで低下した。

その後は回復基調になり、93年には5万6000人、94年は9万人、95年に10万人の大台にのった。そのうち、60歳以上が6割=6万人を占めた。

つまり、これは定年退職した人や、定年前に故郷にかえって自然を相手に農業をやろうという人が増えたことである。

さらに、農村も変わった。高齢化が進んで、農業従業者も殆どが60歳以上だ。人手が欲しい。村を活性化させたい。新しい村づくりに何かをやらなくては。そういう気運がどこの村にもある。

村は呼んでいる、農業も呼んでいる。
そんな時代である。

そこで、定年後、あるいは脱サラを考えている人の立場で参考になる<農業・図書情報>を提供しようと、農文協図書館および農業書センターから資料を集めてみた。

その報告が今週の特集である。

<農業・図書情報>

1、定年帰農・農業に親しむ

机の上に積み上げた雑誌や単行本は数十点になった。いろいろな有名人も田舎くらしをしているんだな、というのが第一の感想。

でも、安くて実用むき、最新情報はやっぱり雑誌だなというのが第二の感想。そこから始めよう。

○『定年帰農』98現代農業2月増刊号 農文協発行 900円
http://www.ruralnet.or.jp/kinou/ke0994_t.htm

表紙の写真は坂本龍虹・れい子夫妻：63歳と61歳：8年前に航空自衛隊を定年退職し、郷里の水俣に農地を購入、帰農した。

いまでは「無農薬の有機農業を」と、アイガモ農法による稲作、水俣の特産だったサトウキビの復活、炭焼き・木酢の採集、おなじ窯を使った陶芸、休耕田を利用したシカ牧場など多彩な農業に取り組む。趣味の社交ダンスでは地元サークル「スイング水俣」代表。

定年10年前から準備、有機農業研究会に入って基礎知識を学び、女房どこの説得、土地の確保などクリアすることが多かったが、3年めに、住居と畑の競売物件をてに置いて、以後上記のとおり。

この雑誌にはこうした記事が満載。増刷するほど売れる訳だ。情報コーナーには中高年に人気の「就農準備校」相談窓口、各県の農業会議所の連絡先、60歳からの農業実用書までついている。

○『田園就職』98現代農業11月増刊号 農文協発行 900円
これからは田舎の仕事がおもしろい。

http://www.ruralnet.or.jp/kinou/ke1093_t.htm

○『帰農時代』99現代農業2月増刊号 農文協発行 900円
むらの元気で「不況」を超える。

http://www.ruralnet.or.jp/kinou/ke1094_h.htm

その他帰農シリーズ紹介

<http://www.ruralnet.or.jp/kinou/>

2、百姓入門資料集（その1）

○ 「新規就農ガイドブック」全国農業会議所 1500円

○ 『全国農業塾データブック』農業共済編 家の光 1700円

○ 『百姓宣言』高橋良蔵 無明舎出版 1648円

<http://www.trc.co.jp/trc/book/book.idc?JLA=88-19502>

- 『30人の大百姓宣言』佐藤藤三郎、星寛治、山下惣一著
ダイヤモンド社 1500円＋税

- 『農がなければ生きられない』丹野清秋、大野和興共編
社会評論社 1854円
<http://www.trc.co.jp/trc/book/book.idc?JLA=91021373>

- マンガ『農業が呼んでいる』大蔵省印刷局 600円＋税
<http://www.trc.co.jp/trc/book/book.idc?JLA=98025579>

- 『田舎暮らしの達人たち』岡村健編 晶文社 1700円＋税
イーデス・ハンソン、上條恒彦、C・W・ニコルなど有名人
<http://www.trc.co.jp/trc/book/book.idc?JLA=98014089>

- 『清水国明の自然遊び日記』読売新聞社 1300円＋税
<http://www.trc.co.jp/trc/book/book.idc?JLA=97017603>

- 『牧場をつくろう！』田中義剛 日刊スポーツ出版 1500円
<http://www.trc.co.jp/trc/book/book.idc?JLA=96038368>

- 『農園からの手紙』玉村豊男 中公文庫 667円＋税
<http://www.trc.co.jp/trc/book/book.idc?JLA=98044490>
<http://www.trc.co.jp/trc/book/book.idc?JLA=96020066>

- 『60歳からのジョイフル農業』小沢禎一郎
農文協 1500円
<http://www.ruralnet.or.jp/books/tao114/tao114.htm>

- 『百歳まで現役百歳館』渡辺広子 家の光 1300円＋税
<http://www.trc.co.jp/trc/book/book.idc?JLA=97016067>

- 『写真ルポ農民志願』橋本紘二 農文協 1937円
<http://www.ruralnet.or.jp/cgi-bin/isbn.cgi?isbn=ISBN4-540-89019-0>

- 『いなかに移り住むということ』寺田瑛子 農文協 1750円
<http://www.ruralnet.or.jp/cgi-bin/isbn.cgi?isbn=ISBN4-540-94169-0>

○ 『農業ノススメ』 押上公人 家の光 1300円
<http://www.ruralnet.or.jp/cgi-bin/isbn.cgi?isbn=ISBN4-259-54499-3>

○ 『脱サラ百姓のための過疎地入門』 坂根修 清水弘文堂
1200円
<http://www.trc.co.jp/trc/book/book.idc?JLA=90008242>

○ 『百姓入門』 奪ワズ汚サズ争ワズ 笥 次郎・白土陽子
新泉社発売 2000円+税
<http://www.trc.co.jp/trc/book/book.idc?JLA=96040518>

3、インターネット・就農ガイド

これから農業をやりたい人、家庭菜園のコツを知りたい人など、農業情報のホームページはたくさんあります。その代表てきなものを紹介しましょう。

◎新規就農ガイドセンター（全国農業会議所内）

<http://nca.agic.ne.jp/guide/index.html>

◎全国農村青少年教育振興会

<http://www.agriworld.or.jp/sinkokai/>

この二つは農林水産省の支援をうけているもので、全国各県にあるものの元締めみたいなものです。

新規就農に当たっての相談や手続き、就農準備学校の紹介、全国一覧表、各県別相談機関・教育・農業体験談などの案内。

就農支援資金の手続き、関連リンクの紹介と至れりつくせりです。

◎ルーラルネット（農文協）

<http://www.ruralnet.or.jp/>

自然と人間の調和をかかげ、農業技術、農村生活の分野を中心に健康・食・教育まで幅広く出版活動をしている農山漁村文化協会

のホームページです。

このなかで農業・食料・健康・環境のデータベース「ルーラル電子図書館」があり、数十万ページにおよぶ、生産と暮らしの情報が盛り込まれている。

「ルーラル電子図書館」

<http://www.ruralnet.or.jp/lib/>

雑誌「現代農業」のバックナンバーは過去二十年におよぶ。これを検索すれば「定年」または「退職」という<キーワード>で読者のさまざまな体験や記事が見られる。

高齢者むきの技術や農村女性の工夫がみえる。

<電子耕の読者は遠慮なく、相談や、質問をおよせください>

またルーラルネットのリンク集をご利用ください。

<http://www.ruralnet.or.jp/links/links.html>

<夏の健康食>

◎ 8月のしゅんの野菜

ミョウガ、キュウリ、カボチャ、ナス、トマト、ピーマン、シシトウガラシ、トウモロコシ、オクラ、サヤインゲン、エダマメ、トウガン、シロウリ、コナス、レタス、根ショウガ、葉ショウガ、モロキュウ、

◎ 夏は、なぜ野菜の旬（しゅん）か

夏野菜は体を冷やす：トマト、キュウリ、ナス、スイカなどは、暑いときに育ち、収穫するもの。人間も暑いから水分を沢山必要とします。

そんなとき、水分の多い夏野菜は体を冷やしてくれ、ウリ類利尿効果もあって浮腫を採るので、沢山食べても病人以外はさ

しつかえはありません。

しかし、「秋ナスは嫁にくわすな」というように、彼岸すぎて涼しくなってから夏野菜を食べるのはよくありません。秋ナスはおいしいが、病人や妊婦にはよくないのです。

姑の嫁いじめのことわざではありません。

(6) ニガウリとウニの二杯酢

効用：

ニガウリは沖縄や九州で古くから栽培され、愛好されてきました。見た目はキュウリを大きくしてイボイボをたくさんつけたグリテスクなすがたですが、ビタミンCはホウレンソウの2倍、パセリの次に多い栄養食品です。最近ガンによいという話もあって、八百屋の店頭によく出るようになりました。

味はそのほろ苦さがとりにえです。風味が食欲をまし、胃腸をととのえる働きをします。

ウニはいまがシーズンです。ビタミンA、B1、B2、リン、鉄などが多くふくまれ、栄養価が高いものです。漢字の雲丹には「不老不死の薬」という意味があります。

作り方：

- 1、ニガウリは、包丁で縦に一本切れ目をいれ、網に乗せて焼く。まわしながら焦げないようにするのがコツ。
- 2、よく冷やしてから斜めに薄く切っておく。
- 3、好みの味に二杯酢をつくる。
- 4、皿にウニを並べ、薄切りのニガウリを彩りよく飾る。上から二杯酢をふりかけて食卓へ。お客様料理にもなる。

<文化座ニュース>

■■■■ 劇団文化座 109 回公演 ●「パートナー」●
■■■■□ これからの人生、
■■□□ あなたはどのように生きていきますか？
■□□□ そして誰と生きていきますか？
□□□□ 出演 佐々木 愛 李 麗仙 ほか
□□□□ 東京・1999年9月4日～12日◆前売券発売中
□□□□ <http://www.nazuna.com/bunkaza/partner1999.html>

『電子耕』読みました」と付記して以下のアドレスにご予約いただければ一般券が1割引になります。

<mailto:bunkaza@anet.ne.jp>

----- 予 告 -----

第7号：8月12日「敗戦8・15前後、そのとき庶民は」

第8号：8月19日「1000年前の稲の品種発見・他」

●協力をいただいているサイト紹介コーナー

「農文協ルーラルネット」

<http://www.ruralnet.or.jp/>

「太陽コンサルタンツ」

<http://www.taiyo-c.co.jp>

「劇団文化座」

<http://www.nazuna.com/bunkaza/>

ここまで読んでいただきありがとうございました。

■ご意見・ご感想は、Eメール

<mailto:tharada@anet.ne.jp>

または、電耕掲示板

<http://www62.tcup.com/6201/tom.html?>

までお願いします。

『電子耕』は、2つのルートで配送しております。

『まぐまぐ(ID=14872)』(<http://www.mag2.com/>)

『Macky !』(<http://macky.nifty.ne.jp/>)

週刊「74歳が送る農業文化マガジン『電子耕』」第6号

--農業・健康・食・図書・人物情報--

バックナンバー・購読申し込み解除案内

<http://www.nazuna.com/tom/denshico.html>

1999.8.5（木）発行 東京・ひばりヶ丘 原田 勉

<http://www.nazuna.com/tom/>

<mailto:tharada@anet.ne.jp>

*****発行部数 747+30 部*****